みずほマーケット・トピック（2025 年 1 月 17 日）

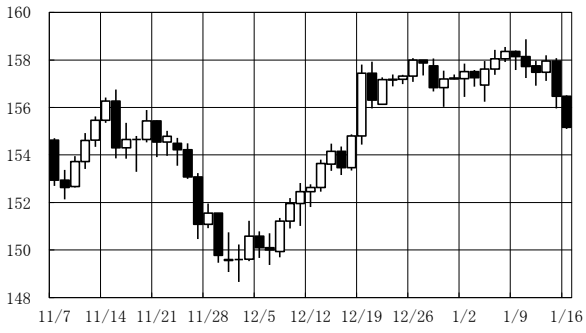
内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料
※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

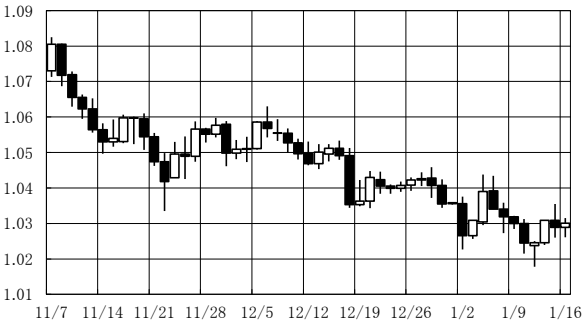
- 今週のドル/円は週後半に急落した。週初13日、157.92円でオープンしたドル/円は本邦祝日で薄商いの中で、株安を背景としたリスク回避の円買いからじり安。海外時間は、米金利低下と共に下げ幅を拡大し一時157円を割り込んだが、米株や米金利の持ち直しに合わせて反発し、157円台半ばで引けた。14日、ドル/円は氷見野日銀副総裁発言を受けて瞬間的に上下し、一時158円に乗せるも相場への影響は限定的。その後は157円台半ばでレンジ推移。海外時間は、米12月生産者物価指数（PPI）の冴えない結果を受けて軟化も、米金利上昇を支えに一時週高値となる158.19円に上伸した。15日、ドル/円は1月会合での利上げ可能性に触れた植田日銀総裁発言をきっかけに円買いが加速し、157円台前半に急落。海外時間は、米経済指標の軟調な結果を受け米金利低下と共に156円割れまで続落。その後は、米金利が下げ止まり、156円台半ばへ値を戻した。16日、ドル/円は日銀追加利上げ期待の高まりを背景とした円買いから155円台前半へ急落後、円買い一服を受け156円台を回復。海外時間は、ウォラーFRB理事のハト派的な情報発信が材料視され、米金利低下と共に155.10円まで値を下げ、年初来安値を更新した。本日のドル/円は、引き続き前日の安値圏で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ばにかけて上昇した。週初13日、1.0243でオープンしたユーロ/ドルは米金利上昇が重しとなり1.0177を付け、年初来安値を更新。その後は米株上昇が下支えとなり反発、一日を通すとほぼ往って来いとなった。14日、ユーロ/ドルは、米経済指標の冴えない結果や独金利上昇を支えに1.03台に上昇した。15日、ユーロ/ドルは米経済指標の弱い結果を受けた米金利低下を好感し一時週高値となる1.0354に急伸も、独金利も低下したことが重しとなり再び1.03を割り込んだ。16日、ユーロ/ドルは米金利動向に振らされつつも、一日を通して1.02台後半を中心に方向感なく推移した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.03付近で取引されている。

		前週末	今週			
		1/10(Fri)	1/13(Mon)	1/14(Tue)	1/15(Wed)	1/16(Thu)
ドル/円	東京9:00	158.04	157.92	157.31	158.04	156.21
	High	158.88	157.96	158.19	158.08	156.52
	Low	157.24	156.92	157.05	155.93	155.10
	NY 17:00	157.74	157.50	157.96	156.48	155.11
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0298	1.0243	1.0263	1.0305	1.0296
	High	1.0312	1.0250	1.0308	1.0354	1.0315
	Low	1.0212	1.0177	1.0239	1.0257	1.0260
	NY 17:00	1.0248	1.0246	1.0307	1.0290	1.0304
ユーロ/円	東京9:00	162.93	161.68	161.26	162.67	160.87
	High	163.14	161.71	162.81	162.88	161.07
	Low	161.28	160.78	161.03	160.79	159.78
	NY 17:00	161.59	161.02	162.81	161.09	159.80
日経平均株価		39,190.40	-	38,474.30	38,444.58	38,572.60
TOPIX		2,714.12	-	2,682.58	2,690.81	2,688.31
NYダウ工業株30種平均		41,938.45	42,297.12	42,518.28	43,221.55	43,153.13
NASDAQ		19,161.63	19,088.10	19,044.39	19,511.23	19,338.29
日本10年債		1.19%	-	1.24%	1.25%	1.20%
米国10年債		4.76%	4.79%	4.79%	4.65%	4.61%
原油価格(WTI)		76.57	77.30	76.37	78.71	77.85
金(NY)		2,715.00	2,678.60	2,682.30	2,717.80	2,750.90

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・ 米国では、20 日(月)にいよいよトランプ氏が新大統領に就任する。昨年 11 月に大統領および議会選挙が実施されたが、その結果は 1 月 6 日に議会において正式に承認された。当選が確実視されて以降、矢継ぎ早に新たな政権人事が公表されたことは記憶に新しい。前回当選時とは全く異なる動きが印象的である。就任前だが、トランプ氏の奔放な発言、および SNS での書き込みが相場で材料視される局面はここまで度々確認されており、既に「トランプ 2.0」が始まったようにも思う。特に、同氏の発言を踏まえる限り、就任初日から関税政策に関して何らかの言及があり、それに応じて為替市場も何らかの反応を示すことも想定される。ただし、関税が実体経済に影響をもたらすのには一定の時間がかかる上に、短期的にはインフレ要因でも、中期的には需要を抑制する効果も期待される。あくまで発言ベースではなく、実際に出てくる政策、およびそれがもたらすインパクトを冷静に見極める姿勢が要求されよう。

・ 本邦では、23 日(木)～24 日(金)に日銀金融政策決定会合が開催される。前回 12 月会合は、金融政策の現状維持を決定したものの、田村審議委員は+25bp の利上げを提案した。植田日銀総裁は会見で「経済はオントラック」としつつ、利上げ見送りの背景として「春闘を含めた賃金動向」「米新政権誕生」といった 2 つの不確実性を挙げた。ただし、これらがはっきりと見えてくるのは 3 月会合以降であるため、1 月の利上げ織り込みがその後後退した動きも頷ける。しかしながら、足許にかけては観測報道などもこなしつつ、市場の利上げ期待は明確に加速傾向にある。実際、本稿執筆時点における 1 月利上げ織り込みは 80%を超えている。更に、年内にもう 1 回の利上げまで 100%織り込まれており、これが足許の円金上昇に寄与しているのは言うまでもない。

	本　　邦	海　　外
1 月 17 日(金)	―――――――――――――――	・ユーロ圏 11 月 ECB 経常収支 ・ユーロ圏 12 月消費者物価指数（確報） ・米 12 月住宅着工/建設許可件数 ・米 12 月鉱工業生産
20 日(月)	・11 月コア機械受注 ・11 月鉱工業生産（確報） ・11 月設備稼働率 ・11 月第 3 次産業活動指数	・独 12 月生産者物価指数 ・米トランプ新大統領就任
21 日(火)	―――――――――――――――	・独 1 月 ZEW 景気期待指数
22 日(水)	―――――――――――――――	―――――――――――――――
23 日(木)	・12 月貿易収支 ・日銀政策決定会合（24 日まで）	・ユーロ圏 1 月消費者信頼感（速報）
24 日(金)	・12 月消費者物価指数 ・1 月製造業/サービス業 PMI（速報） ・植田日銀総裁会見	・ユーロ圏 1 月製造業/サービス業 PMI（速報） ・米 1 月製造業/サービス業 PMI（速報） ・米 1 月ミシガン大学消費者マインド（確報） ・米 12 月中古住宅販売件数

【当面の主要行事日程(2025 年 1 月～)】

日銀金融政策決定会合（1 月 23～24 日、3 月 18～19 日、4 月 30 日～5 月 1 日）
FOMC（1 月 28～29 日、3 月 18～19 日、5 月 6～7 日）
ECB 政策理事会（1 月 30 日、3 月 6 日、4 月 17 日）

金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html　(Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年1月15日	「NISA貧乏」もインフレ税の結果
2025年1月14日	サービス収支赤字の長期試算～赤字▲10兆円の常態化か？～
2025年1月10日	週末版
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、パリティ割れを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「プラザ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見通しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版（日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～）
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	週末版（ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か？～）
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版（流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～）
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすべきではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのパリティ割れ
2024年11月22日	週末版（史上最大の妥結賃金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期妥結賃金を受けて～）
2024年11月21日	混迷が極まるドイツの政治・経済情勢
2024年11月19日	ECB政策理事会議事要旨を受けて～12月利下げの読み筋～
2024年11月18日	日銀にとって「渡りに船」となる好調な個人消費
2024年11月15日	週末版
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか？
2024年11月13日	内外物価格差で感じること～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版（ナローパスに嵌まるFRB～「トランプ2.0はインフレ2.0」～）
2024年11月1日	週末版
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版（政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか？～）
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版（ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～）
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか？
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年9月分）
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は？～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観（9月調査）と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について（2024年6月末時点）
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版（145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～）
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年8月分）
	週末版（ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～）
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版（ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～）
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版（欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～）
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年7月分）
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版（「円安バブル」報道について②～2005-07年との比較分析～）
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05-07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版（「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～）
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「賃金は必ず下がる」という自信～）